

勝手に仕分けしてみました～これって必要？～ 岩谷美苗

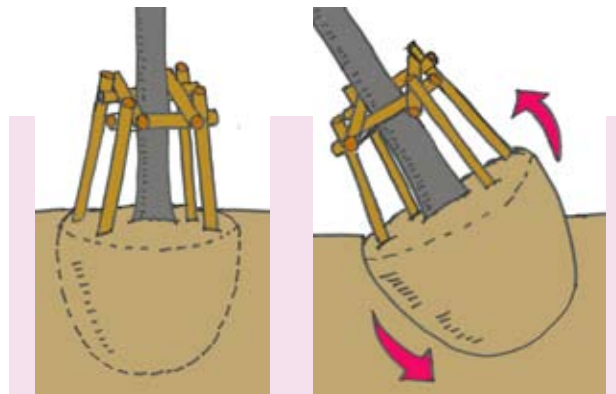
お金の無駄、労力のもったいない、まして樹木のためにもなっていない「木の手入れ？」は慣例のように行われています。樹木に関する無駄をあげてみました。



人がほとんど歩いていない道路の補修で根を切断・・・身体を支えている根を切られたサクラは衰退し、道路側へ倒伏する可能性もあるでしょう。



夏の剪定・・・葉があることで気化熱（蒸発熱）を奪い涼しくなります。夏の暑さを緩和してくれる葉をなぜ夏に切るのか。無料の冷房を失っています。



移植木の根鉢内の支柱・・・全く支えることになっていないのに、数年ごとに結束し直されています。人間で言えば松葉杖が靴にくっついているようなものです。



unnecessary branches left, necessary branches cut pruning・・・切った方がよいてんぐす病の枝は切らず、大事にしないとイケない胴吹き枝を切る剪定をよく見かけます。適切でない剪定は木を衰退させ、危険な枯れ枝を作ることになります。



ウレタンやコンクリート充填などの外科手術・ふた空洞を埋める外科手術は、かえって木を傷めるため、現在は行いません。左の写真は伐採されたプラタナスです。コンクリートを充填されていました。切断あとにふたをするのも何の効果もありません。



雑木林の剪定・・・隣接する建物と無関係な林内の木が切られています。集団で暮らしている木は、光を求めて上へ早く伸びようとします。葉の上に少ししかつけてないものがほとんどで、光合成による生産も少なく、細々と暮らしています。そんな木を剪定すると、生産工場を失い、また少ない貯金も失い、病虫害が侵入しやすくなるので数年後枯れることになります。



大樹のそばに植樹・・・サクラの下にサクラを植えていましたが、陽樹であるサクラが大樹の陰で健全に育つのは難しいでしょう。残念ながらこの木に将来はありません。また、苗を植えるために少なからず大樹の根を切ることになり、大樹の方も衰退してしまうでしょう。



将来的に問題が起りそうな場所に木を植える・・・確実に枝が屋根にあたって、枯れ枝となるでしょう。不安定な樹形が予測されます。



過密な植えこみ・・・過剰な密度の植栽は、劣悪な生育環境をつくるでしょう。病虫害が多発したり、枯木を増やすことになり、結局は無駄なお金を使うこととなります。

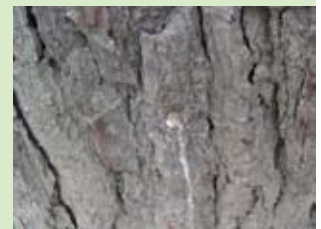


過密に植えられた木の剪定・・・植えた人は大きくなることを想定していないので、大きくなって困ると強剪定を繰り返すこととなります。過密に植えて木に競争をさせているのは植えた人です。木をたくさん植えればいいというものではなく、木が健全に育つにはそれなりのスペースが必要だということを理解しなければなりません。



腐朽部分に塗布剤・・・すでに腐朽している箇所に塗るのは無駄です。中の菌は死ぬこともなく、キノコも出てきます。

マツノ材線虫病に耐性のある木の樹幹注入剤・・・マツノ材線虫病予防で樹幹注入剤が使われることが多いのですが、マツノ材線虫病にほとんどかからない樹種にも行われているのを見かけます。この病は北米から来た病気で、日本のマツ（アカマツ、クロマツなど）は激しい被害を受けますが、北米のマツはあまりかかりません。右写真は写真はダイオウショウに樹幹注入されていました。ダイオウショウは北米原産なので、不要です。幹に穴をあけて行う注入作業により樹木が枯損した例もあるので、不要な薬（しかも高い）を使って、木を傷めては笑い話にもなりません。



必要なのは？

普及事業・・・樹木について正しく、しかもわかりやすい情報が少ない。間違って理解している人が多いとも言える。技術開発・・・人間の都合からの技術開発は行われているが、木の都合での技術開発はあまり行われていない。木の都合ではあるが、木が健康に育つ空間は人間にもプラスに働くと思われる。

土壌調査・土壌改良工事・・・土壌を調べて植栽して欲しい。土壌改良が必要な場所が多いと思う。

植栽の無理がないかチェック機能・・・デザイン重視で、生育環境を考えていないものが多いので、維持に膨大な手間と費用がかかってしまうこともある。植える前にセカンドオピニオンのような意見をもらおうとランニングコストを節約することができると思う。

植栽前に管理計画・・・木は大きくなるので、10年ごとのプランなど作っておくべきである。そうすることで、合理的に予算を使うことができる。